胆振総合振興局森林室
普及課・豊浦事務所情報誌
じゅ　りん
～樹　林～

第４５号　令和７（２０２５）年１１月２０日
発　行　胆振総合振興局森林室

【普及課】
苫小牧市矢代町3丁目1-18
TEL：0144－72－5123
FAX：0144－74－0754

【豊浦事務所】
豊浦町字船見町10　豊浦町役場内
TEL：0142－83－2481
FAX：0142－83－3521

令和7年度森づくり勉強会を開催しました

令和７年度森づくり勉強会を白老町、苫小牧市で開催しました。
今回の研修では、市町職員・森林組合職員・森林所有者など３５名の方が参加し、以下の箇所について見学を行いました。

●令和７年１１月６日（木）
①桔梗原農園（白老町）
②胆振東部森林管理署（白老町）
③株式会社ヨシダ（苫小牧市）

●令和７年１１月７日（金）
④萩の里自然公園（白老町）
⑤ウポポイ民族共生象徴空間（白老町）
※１１月７日は指導林家のみ参加

11月6日

研修１箇所目は白老町にある桔梗原農園を視察しました。桔梗原農園では原木シイタケ、ナメコ生産を行っており、ほだ木に使用するため、自らミズナラの植栽、保育作業を実施しています。北海道指導林家でもある桔梗原和夫氏のご説明を受けながら、ミズナラ林やスギ林、原木シイタケ栽培ハウスを見学しました。
最後は、桔梗原指導林家自ら造園を行った素晴らしい庭園前で集合写真を撮りました。

桔梗原氏の現地説明

胆振東部森林管理署での室内説明

研修２箇所目は胆振東部森林管理署において、国有林での森林管理についてお話を伺いました。
胆振東部森林管理署は、苫小牧市、白老町、むかわ町に所在する約６３千haの国有林を管理経営しており、近年増加しているエゾシカ対策にも取り組んでいます。森林被害を把握する調査や捕獲事業についてご説明していただきました。

次のページ

研修３箇所目は苫小牧市へ移動して株式会社ヨシダの工場を視察しました。
株式会社ヨシダでは、道産トドマツを主な原料として、型枠用サンギや梱包パレット材などを中心に生産している工場です。工場の概要説明を吉田専務取締役から伺った後、実際に工場内を視察しました。
トドマツの丸太から製材として取れるのは約45％であるが、製材として使えない残りの部分はチップ等にして100％利用しており、木材は余すところなく活用できる資源だとお話していただきました。

株式会社ヨシダ工場の視察

11月7日

萌芽更新調査地の視察

研修４箇所目は白老町の萩の里自然公園内にある広葉樹萌芽更新の調査地の視察を行いました。この調査地は皆伐後から５年間、萌芽の生存率や成長の調査を行っており、現在も経過観察しています。
萩の里自然公園管理運営協議会の坂本氏より調査結果のご説明を伺った後、現地を視察しました。

最後に、ウポポイ（民族共生象徴空間）を見学しました。様々な展示や体験プログラムなどもあり、アイヌ文化の歴史を学ぶことが出来ました。
以上で２日間に渡る研修が終了しました。

今回の研修では、山づくり・木材加工・エゾシカ被害対策など様々な事を学べる大変有意義な研修となりました。

ウポポイ（民族共生象徴空間）

令和7年度市町村職員等技術力向上研修会を開催しました

市町職員等の技術力の向上を目的に、スマート林業についての研修会を７月２４日に開催し、市町職員や森林組合職員など２２名の方が参加されました。

ドローン実演の様子

当日は、現地でドローンを活用した測量の実演のほか、Mapry（マプリィ）やLiDAR（ライダー）といった最新の機器を使用した標準地調査実習を行いました。

その後室内に移動して、QGISを活用したドローン撮影画像による造林事業図面作成の方法や、LiDARを活用した資源把握の方法についての講義を行いました

LiDARによる標準地調査

今後もICT等を活用したスマート林業の技術の取得・知識の向上・普及定着に向けて研修を行っていきたいと思います。

胆振東部地震　森林再生・復興　お便り

胆振東部地震森林再生の取り組み

第１７回胆振東部森林再生・林業復興連絡会議が開催されました

本年８月２７日に厚真町において、震災からの森林再生や林業復興を目指し、被災３町をはじめ関係機関が参集する連絡会議が開催されました。

会議では、室内で森林再生に向けたこれまでの取組状況などが報告された後、現地で植栽が行われた被災森林や新設した道路を確認しながら、今後の復旧の取組について討議がされました。

○室内討議

- 「胆振東部地震森林再生実施計画」の進捗状況
- 震災復旧に係る植栽地の現状や治山事業における緑化・植栽の経過
- 試験研究機関による研究成果報告
- 崩壊地における植栽及び天然更新の状況

○現地検討

- 被災森林における森林再生の現状について
- 崩壊斜面における植栽の状況
- 林業専用道や森林作業道での洗越工（河床路）の設置状況について

詳しい資料は、北海道庁水産林務部森林整備課のホームページで、公開されていますので、ご覧ください。

URL:https://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/srs/hukkourenrakukaigi.html

右のQRコードからでも、アクセスできます。

震災復興祈念　さくら植樹会の開催（厚真町）

胆振東部地震の被災森林の復旧、復興は長期間に及んでおり、森林再生への理解促進と、震災の記憶をつないでいくため、本年１１月４日に厚真町において、関係機関との協力により、植樹会が開催されました。

地元こども園の園児、厚真町民や地元関係者等に参加していただき、エゾヤマザクラの植樹を行いました。

～森林分野のJ－クレジットとは？～

Ｊ－クレジット制度の概要（森林分野）

Ｊ－クレジット制度とは、CO_2（二酸化炭素）の排出削減量や吸収量を取引可能な「クレジット」として国が認証する制度です。森林分野では、森林が吸収したCO_2を見える化し、認証しており地球温暖化対策と森林保全の両立を目指しています。

森林分野のＪ－クレジットは、以下のような活動によって創出されます。

- **森林経営活動**：間伐や植林など、森林経営計画に基づいた森林整備を行う。
  （※主伐はCO_2排出扱いのため注意）
- **植林活動**：森林でなかった土地に新たに木を植える。
- **再造林活動**：伐採跡地や未立木地に木を植えて育てる。

これらの活動によって、森林が吸収したCO_2の量を国が認証し、「クレジット」として発行します。

クレジットの活用とメリット

- 企業や自治体が購入することで、自らのCO_2排出量をオフセット（相殺）できる。
- 森林所有者や管理者は、森林整備（間伐・植林）や森林管理を行うことで、クレジットを販売して収益を得ることができ、森林整備の資金に充てられる。
- 地域の林業振興や地域活性等にもつながる。

※登録や審査・現地調査等に係る費用負担もあるため事前検討が必要！

詳しい資料は、林野庁並びに北海道造林協会のホームページで、公開されていますので、ご覧ください。

●林野庁　https://www.rinya.maff.go.jp/j/sin_riyou/ondanka/J-credit.html

●北海道造林協会　https://fjc-hokkaido.jp/

右のQRコードからでも、アクセスできます。

林野庁　　北海道造林協会

最近の木材市況

～道林業木材課調べ　２０２５年１０月現在～

樹　種	材長(m)	径級(cm)	㎥当単価(円)	前月差(円)
カラマツ	3.65	9～13	9,200	0
〃	3.65	14～18	11,400	0
〃	3.65	20～28	13,300	100
〃	3.65	30上	13,500	100
〃	パルプ		8,400	0
トドマツ	3.65	14～18	10,400	100
〃	3.65	20～22	12,200	100
〃	3.65	24～28	13,200	0
〃	3.65	30上	14,200	100
〃	パルプ		8,200	0
広葉樹	パルプ		10,900	0

道内の原木流通の動向

○エゾ・トド原木入荷は、概ね順調。一部で不足気味。原木に痛みや虫害が多く発生しており歩留まりが低下しているとの声がある。
市況は保合～強含み。

○カラマツ原木の入荷は、かなり少なくなっており、全道で不足感が強い。市況は弱保合～強含み。

○パルプ（チップ（山棒・樹皮））は、保合。

※強含み（つよぶくみ）：価格が上昇しそうな雰囲気
※保合（もちあい）：売り買いともに様子見。価格が横ばい